

菱の実

佐賀大学理工学部同窓会会報 第14号



発行日 2012年11月1日

発行菱実会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253

FAX 0952-25-5700

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://dousou.ext.saga-u.ac.jp>

編集者 田中正和

同窓会長就任の挨拶



菱実会長

秋永 正幸

本年3月の役員会で第7期役員が決定し、4月より会長を引き受けましたが私としては14年前の同窓会発足時同窓会長をやりましたので再登板となります。今後2年間同窓会員皆様のご協力をえて、その責任を果たしたいと思いますので宜しくお願い致します。

私は特産の枇杷で有名であった多久市東多久町納所で生まれ小城高校を経て、S41年設立されたばかりの理工学部機械工学科に入学しました第1期生です。

設立当時の理工学部は工学系の機械と電気、理学系の物理、化学、数学の5学科で定員170名でした。理工学部の校舎もまだなく、出来たばかりの体育館で入学式があり、凸凹道を通っていったことが思い出されます。今では7学科で定員は500名をこえて同窓生も15000名をこえ

て各方面で活躍しておられる人が沢山います。今後、この「菱の実」で、順次御紹介して行きたいと考えております。

現在同窓会として取り組んでいますのは理工学部設立50周年に向けての事業です。チームを作り具体的な取り組みを検討中ですが理工学部史(3D制作)、式典の開催等を考えていますが数多くの同窓生皆様のご意見やお持ちの資料を活用させて頂きたいと思っています。そこで、全学同窓会が各支部で開催されます折には理工学部同窓会として複数の役員を派遣し各支部の理工学部同窓生とお話し出来る機会をつくり、ご協力をお願いしたいと思っていますので同窓会のご案内が参りましたら是非にご参加をお願い致します。これを機に同窓会の人の輪を広げたいと考えています。

すでに皆様には文書でお願い致しました佐賀大学美術館設置事業へのご寄付についての件ですが、寄付者が大変少なく、9月6日現在全学合計で約1%弱(全同窓生に対する割合)です、理工学部は0.5%弱です。皆様におかれましては事業の趣旨をご理解いただき一口以下でも可能な限りのご協力をお願い致します。

また、50周年の時には正門と美術館が完成し新しく佐賀大学のシンボルになっていることでしょう。最後に同窓生皆様のご健勝をお祈り致しまして就任のご挨拶といたします。





特集

vol.10

同窓生のものづくり

この特集は、理工学部出身の同窓生(数物情報系、化学系、電気電子系、建設系の学科・大学院グループからそれぞれ1名ずつ)に執筆をお願いいたしました。綴られる各分野での「ものづくり」やその思いを通し、みなさんの活動への刺激や新たな交流の機会となれば幸いです。



建設系

まちづくり

今治市役所 環境衛生部 下水道工務課
越智 祐介
(工学系研究科 都市工学専攻・H15年修了)

私が今治市役所に勤め始めて10年が経過しようとしています。学生時代は市の仕事について全く知識がなく、市役所へ行くといえばせいぜい住民票をもらいに行くことぐらいでした。そんな不安な気持ちで入庁した一年目では道路課へ配属され、生活道路の設計、工事発注、現場監督といった市民の生活に直結した仕事に着任しました。道路というものは移動・交流・流通といった直接的な役割ばかりでなく日々の生活からは見えにくい上水・下水・ガス・通信網といった埋設物、接道義務といった建築基準など間接的な役割も担っており、日々の生活を支える社会の土台を作っていく大事なものであると感じました。

そして今は下水道工務課に在籍しており、下水道事業の計画部門に携わっています。衛生的な生活環境の改善や大雨による浸水被害の対策を練っています。下水部門で活躍する単語といえばBOD。この言葉を聞いたときは内心「お



おっっ！」と思いました。何年ぶりに聞くことばだろうか。無理やり頭に叩き込んだ衛生工学の授業が頭をよぎりました。トイレ、風呂、炊事、洗濯等で発生する汚水。この汚水を排除してくれることでどれだけ生活の水環境を快適にしているか、下水道の役割に感服です。

市の仕事というのは普段の生活ですごくお世話になっているがそのことに気づきにくい。しかし、街をつくることを直に感じることができる職場と思っています。これからも生まれたこの街で共に成長していきたいと思います。

余談ですが今治市の本庁舎は丹下健三氏の作品です。しまなみ海道のサイクリングに丹下氏の作品めぐりも添えてみてはどうですか。

「やれば何でも出来る」

株式会社 STS メディアレップ
古賀 克幸

(工学系研究科 情報科学専攻・H13年度修了)

私が勤務している STS メディアレップは、佐賀県内唯一の民放放送局サガテレビのグループ会社です。サガテレビ及びグループ会社の情報システム開発・運用・管理が主な仕事内容です。

直近では、ワークフロー及び会計システムをグループ全社で共用利用するという仕事を行っています。ワークフローの内容についてはどの会社もほぼ同じでしたが、会計処理に関しては各社の業態や事情が異なっていました。その会計処理について何も知らなかった私ですが、独学で勉強しながら各社との打ち合わせや調整作業を行うことができます。これはひとえに、大学院時代の研究室が何でもやってみようという環境だったおかげだと思います。

当時の研究室で星空が好きという話をしたとこ

ろ、何故か夏休みを利用し和歌山県のみさと天文台で住込みバイトをすることになりました。



た。「話についてはからはよろしく」という感じで、全て任せられましたのでやってみました。行き帰りの行程や現地での生活など色々大変でしたが、無事やり遂げることができました。それ以降、やれば何でも出来るという自信がつかえました。

日々の仕事や出来事では、経験したことのないことや知らないことに遭遇します。そんな時、大学時代や社会人となり学んだことを活用して乗り越えていける能力が全ての人にあると信じています。これからも「やれば何でも出来る」という信念で邁進してまいります。

最後に、卒業してからもご指導ご鞭撻頂きました恩師に感謝をこめて「ありがとうございます！」

「研究と開発とものづくり」

石原産業株式会社 中央研究所 製剤研究室
石橋 優

(工学系研究科 機能物質化学専攻・H18年修了)

私の勤める石原産業株式会社は、酸化チタンの研究・製造・販売を主とした無機事業と、農薬の研究・製造・販売を主とした有機事業の二本柱にて、国内外で事業展開している会社です。入社以来、私は滋賀県に位置する研究所にて、農薬製剤



の研究開発に携わっています。

農薬製剤の開発は、環境と人畜に対し安全性が確保されなければならないことは言うまでもなく、使

用者にとって使いやすく、活性成分の持つ本来の力を引き出すことが求められます。当然ながら事業ですので、コスト回収できる成果が求められます。料理人が素材の特徴を引き出す“料理法=Recipe”を構築するが如く、見出された活性成分の力を如何に倍増できる“処方=Recipe”を構築できるかという点で、研究者の腕の見せ所となります。今ある材料でどれだけ最善を尽くせるか、日々、私は開発に邁進しています。

農薬製剤は、懸濁系や乳化系を操る、コロイド化学・界面化学の範疇になります。ただ、学問のそれとは異なり、多成分系なので、何故かこの方法だとうまくいくといった場面も少なくありません。伝統品のものづくりは、経験からくる先代の技術を弟子に伝える伝承が行われます。私は、時間に限りがある企業研究も同じく、経験の伝承が大切だと考えます。売れる製品という目の前の目標達成と併せて、良い製品を持続的に生み出すために知識と経験を伝承していく、この一貫が、今の私のものづくりのスタイルです。

「私のものづくりに 対するこだわり」

ダイキン工業株式会社
田苗 孝行

(工学系研究科 機械システム工学専攻・H19年修了)

私が勤めているダイキン工業株式会社は、主に住宅用、業務用エアコンや空気清浄機などの空調事業を中心として、フッ素を使用した化学事業、油圧機器を取り扱う油機事業をおこなっている会社です。

私は入社して以来、品質管理部門で開発品質を担当しています。設計部門が開発する商品の品質が守れているか、量産開始後の商品も、設計仕様通りの商品のものづくりが出来ているかを試験、審査をする業務をおこなっています。時には海外の生産委託先へ出張し、現地の方と力を併せて仕事をすることもあります。

私は佐賀大学機械システム工学部へ2001年に入学し、その後、工学系研究科熱エネルギーシステム工学科で熱工学をメインに学びました。私が勤

めている会社では、若い内から責任のある仕事をまかせられることも多く、その業務を遂行するには品質管理の知識はもちろん必要ですが、併せて熱工学、機械工学、流体工学等々の知識が必要です。そんな時に大学で学んだ知識がベースとなり、今でも仕事をする上で不可欠な知識となっています。

私が今の仕事を行う上で大事にしていることは、現物を確認することです。品質管理部門は、営業、サービス、製造、設計、物流部門などから、様々な情報が入ってきます。その中には、当然電話やメール、写真で連絡が来ることも多くあるのですが、それでは伝わらない情報が多くあります。その時には実際に現物を見ることで、伝えたかった情報の本質がわかることがよくあります。今後も、現物にこだわって仕事を続けたいと思います。



「私の仕事」

有明工業高等専門学校
清水 暁生

(工学系研究科 システム生産科学専攻・H22年修了)

平成14年に佐賀大学電気電子工学科へ入学し、電気回路や電子回路を学びました。研究室ではアナログ集積回路の研究を行い、この研究を続けたいと思うようになりました。この研究を続け、より深い知識を得るために博士後期課程に進学し、アナログ集積回路に関する研究で博士号を取得す



ることができました。このとき、後輩への指導を通して教えることにやりがいを感じるようになり、研究と教育を両立で

きる教職に興味を持つようになりました。これがきっかけで、有明工業高等専門学校に着任することになりました。

高専とは、中学校を卒業した学生が5年間かけて専門分野を学ぶ場であり、高校と大学が一緒になったような教育機関です。私は有明高専の電気工学科に所属しており、電子回路や通信工学を教えています。また、大学院のときと同様に、アナログ集積回路に関する研究を行っています。現在も月1、2回の頻度で佐賀大学へ行き、研究の打ち合わせ等を行っています。

好きな研究をやって好きな科目を教えているので、現在の仕事が楽しく、充実した日々を送っています。しかし、それと同時に、教育の難しさを痛感しています。例えば、大学院のころにはやる気のある学生ばかりに教えていましたが、高専では授業に興味のない学生にも教えなければなりません。また、わかりやすく教えるためには広く深い知識が必要です。このように、今頃になって先生たちの苦勞がわかるようになりました。

今後も勉強と研究を続け、日本を支えるエンジニアを育成することを目指していきます。

第8回理工学部学生の表彰

(敬称略)

平成24年4月4日(水)理工学部1号館地域連携デザイン工房にて理工学部学生表彰式が行なわれた。

学生表彰は、2年次及び3年次の学生で成績が優秀であると認められた学生に対し、各学科から2名合わせて14名が表彰され、同窓会（菱実会）からは、図書カードを贈り、その業績を讃えた。

学 科	2年(10)	3年(09)
数理科学科	江 頭 明 佳	坂 本 光 二
物理科学科	野 中 一 典	寺 崎 裕 人
知能情報システム科学	千々岩 舞	山 下 智 史
機能物質化学科	林 由佳子	松 尾 朋 子
機械システム工学科	上 野 聡 士	鶴 若 菜
電気電子工学科	佐 藤 未 波	牛 島 孝 哉
都市工学科	住 吉 栄 作	池 田 千 代



(平成23年度 学生表彰)

平成23年度 佐賀大学長表彰が行なわれました。

理工学部からは、次の方々が受賞されました。

氏 名	学科・専攻	内 容
おおにし ともや 大西 智也	工学系研究科/ 修士課程1年	マイクロ波技術に関する全国規模のワークショップ(電子情報通信学会 APMC 国内委員会主催)設計コンテストの「1段増幅器」部門において最優秀賞を受賞
かわさき けんご 川崎 健吾	工学系研究科/ 平成23年度修了	2011Microwave Workshop & Exhibition (MWE2011) マイクロ波分野の特別表彰として Takashi Ohira Prize を受賞 マイクロ波技術に関する全国規模のワークショップ(電子情報通信学会 APMC 国内委員会主催)設計コンテストの「2段増幅器」部門において最優秀賞を受賞
うえはら たつま 上原 達摩	工学系研究科/ 平成23年度修了	マイクロ波技術に関する全国規模のワークショップ(電子情報通信学会 APMC 国内委員会主催)設計コンテストの「1段増幅器」部門において優秀賞を受賞
うしじま ゆう 牛嶋 優	工学系研究科/ 博士課程2年	マイクロ波技術に関する全国規模のワークショップ(電子情報通信学会 APMC 国内委員会主催)設計コンテストの「2段増幅器」部門において優秀賞を受賞
ほそき あきひろ 細木 秋裕	工学系研究科/ 平成23年度修了	The19th International Conference on Computers in Education, ICCE2011における研究発表が Best WIPP (Work-In-Progress-Poster) Award を受賞
みやもと なおみ 代表 宮本 尚美 他3名	三島・田口研究室 まちの間グループ	学生自らが空き家を学生シェアハウスとして改修して住み込み地域活性化に取り組む一連の活動を主体的に行った。このまちの間グループの活動が、九州経済フォーラム地域活性化賞を受賞し、また、第3回佐賀の木・家・まちづくり賞知事賞(内定)が決定し、活動内容が高く評価され、今後の展開が期待される。

寄付 のお礼

- 過日 眞鍋傳三氏 (S54年電子工学科卒)平成22年7月に逝去されました。ご親族さまより、菱実会に金一封の寄贈がありました。謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。
- 理工学部工業化学科同窓会(森山文雄会長S48年工業化学科卒)から同窓会の解散にあたり、理工学部同窓生のために役立ててほしいと、菱実会に金一封の寄贈がありました。

第14回 菱実会総会の報告

平成24年9月1日(土)佐賀大学「菱の実会館」で、総会が開催され、平成23年度事業及び決算報告と平成24年度事業計画と予算が報告された。

平成24年度

事業計画

1. 会報の発行
2. 会員の拡大
3. 同窓会名簿の管理
4. 同窓会支部活動
 - * 理工学部同窓会支部活動強化
 - * 理工学部同窓生へ支部会参加を要請
5. 就職援助活動
 - * 理工学部就職懇談会への支援
 - * 理工学部自己啓発セミナー開催準備
6. 各種情報の提供
7. 理工学部50周年に向けての事業
 - * 理工学部50周年誌の発行
 - * 佐賀大学の建物の変遷（3CG）創設時から最近の状況
8. 佐賀大学及び他学部同窓会と連携

理工学部同窓会

7期役員名簿

(平成24年4月1日～平成26年3月31日)

(敬称略)

会長	秋 永 正 幸 (機械45卒)
副会長	前 山 道 明 (機械46卒)
副会長	椿 忠 彦 (物理53卒)
理事 (庶務幹事)	穂屋下 茂 (機械49卒)
理事 (庶務)	津 留 保 生 (電気H1卒)
理事 (庶務)	深 井 澄 夫 (電子53卒)
理事 (庶務組織)	米 満 潔 (化学60卒)
理事 (庶務組織)	渡 邊 健 次 (物理62卒)
理事 (広報)	田 中 正 和 (化学48卒)
理事 (広報)	磯 野 健 一 (工化62卒)
理事 (広報)	帯 屋 洋 之 (建設H4卒)
理事 (会計)	中 島 道 夫 (化学47卒)
理事 (会計)	田 口 光 雄 (電気50卒)
監 事	高 崎 光 浩 (化学60卒)
監 事	池 上 康 之 (生機61卒)

菱実会の動き

H23
11月

H24
10月

- H23. 11. 1 理工学部同窓会会報「菱の実 No. 13」発行
- H23. 11. 16 単位提供講座キャリアデザイン／講師斎藤 泰志氏 (H6・数学)
- H23. 11. 19 第19回佐賀県青春寮歌祭／エスプラッツホール
- H23. 11. 19 山口支部総会・懇親会／国際ホテル宇部
- H23. 11. 26 東海支部総会・懇親会／名鉄ニューグランドホテル
- H23. 12. 8 理工学部同窓会支援就職懇談会 (都市工学科) 講師2名卒業生
- H23. 12. 21 理工学部同窓会支援就職懇談会 (電気電子工学科) 講師2名卒業生
- H24. 1. 20 理工学部同窓会支援就職懇談会 (機能物質化学科) 講師2名卒業生
- H24. 1. 27 理工学部同窓会支援就職懇談会 (物理学科) 講師2名卒業生
- H24. 1. 27 理工学部同窓会支援就職懇談会 (機械シ

ステム工学科) 講師2名卒業生

- H24. 1. 29 鹿児島支部総会・懇親会／レクストン鹿児島
- H24. 2. 3 沖縄支部総会・懇親会／天久テラス
- H24. 2. 17 理工学部同窓会「役員会」
- H24. 3. 15 理工学部同窓会「役員会」
- H24. 4. 24 理工学部同窓会「役員会」
- H24. 4. 26 「佐賀大学と佐大同窓会との意見交換会」／ホテルニューオータニ佐賀
- H24. 8. 3 理工学部同窓会「役員会」
- H24. 8. 8 佐賀大学 オープンキャンパス
- H24. 9. 1 理工学部同窓会「総会・懇親会」／佐賀大学「菱の実会館」多目的室
- H24. 9. 1 理工学部同窓会会報「菱の実 No. 14」編集会議
- H24. 10. 12 理工学部同窓会「役員会」
- H24. 10. 27 筑後支部総会・懇親会／ランヴィエール勝島
- H24. 10. 27 諫早支部総会・懇親会／L&L ホテルセンリユウ

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなど、事務局宛にご連絡下さい。皆様方からのご寄稿を心よりお待ちしております。